

平成28年度 第4回白井市市民活動推進委員会会議録

1. 開催日時 平成29年3月1日（月）午前10時30分～12時 午後1時15分～4時
2. 開催場所 白井市保健福祉センター2階 研修室2
3. 出席者 鍋嶋洋子委員長、林 章副委員長、市川温子委員、橋本皓次委員
黒添 誠委員、押田知之委員、赤間賢二委員、米澤拓也委員
高安敬子委員、上坂千昭委員、嶋田昇二委員（名簿順）
4. 欠席者 なし
5. 事務局 豊田課長、松岡主査補、新井主事
6. 傍聴者 8名

7. 議事

平成29年度白井市市民団体活動支援補助金の審査

- (1) 補助金審査の流れ [非公開] (資料1、2)
- (2) 公開プレゼンテーション [公開] (資料1)
- (3) 補助金審査 [非公開]

8. 会議概要

- (1) 補助金審査の流れ [非公開] (資料1、2)

(理由) 白井市情報公開条例第9条第1項第6号に基づき、補助金審査の内容のため。

- (2) 公開プレゼンテーション [公開] (資料1)

[事務局] ただいまより、平成29年度白井市市民団体活動支援補助金の審査に係る公開プレゼンテーションを開始いたします。

市では、公益活動を実施する市民団体を対象に、自立した活動の促進を支援する補助制度を創設し、市民主体のまちづくりと活力がある地域社会の実現を目指しているところです。

このたび、平成29年度の市民団体活動支援補助金を募集したところ、活動促進型に6団体、活動発展型に2団体の申請がありました。それぞれの団体より申請された事業について、学識経験を有する人、公共的団体などの代表者、公募市民で構成する市民活動推進委員会が書類審査と合わせ、これから行います団体による発表、質疑を含め、総合的な観点から補助金の細部について審査を行います。

本日は、市民団体による公益活動を広く市民の皆様にご覧いただく機会として、団体による発表と質疑を公開形式とした公開プレゼンテーションを実施することといたしました。

なお、活動促進型に申請された1団体が辞退されたため、本日は、これより7団体による

公開プレゼンテーションを実施することといたします。

それでは、1団体目の方、お願いします。

<発表団体名 ステップ>

[発表者] それでは、始めさせていただきます。私どもは、事業内容として申請書に書きましたように、主に子供の貧困対策としての学習支援を掲げる団体ステップでございます。審査項目に沿いまして3点説明をしたいと思います。

まず1点目は、必要性和公益性についてです。これは二つに分かれまして、一つは日本社会全体の課題としてという側面。もう一つは、当白井市に即している面。前者については、配付した資料でございますように、閣議決定で子どもの貧困対策に関する大綱というものをもう既に2年半前に作成しているところです。

そして、文科省の子供の貧困対策の推進というものの中には、ひとり親家庭の支援、あるいは地域による学習支援。これも今日配付されています資料2と3にあるかと思いますが、そういうことで学習支援の充実ということを政府の制度改革で掲げているということでございます。特に地域による学習支援に関しては、こんな文言があります。原則無料の学習支援を平成27年度から開始しました。そういうことを支援の一部として始めているということをやっているわけでございます。そしてまた、マスコミのさまざまな報道にございますが、次に直近の2月にNHKスペシャルで見えない貧困、あるいは朝日新聞で子供の貧困どうすると5回連載のもの2回目まで出ていますが、こんな形で日本社会全体の課題としてあるんじゃないのかということなんです。

ただ、当白井市にとってはどうなのか。ここが一番肝心なところなのですが、実は昨年、子供の学習支援事業に関するアンケートというのを白井市の保健福祉課がやっております。実は、その内容は、私の手元に2枚3枚あるんですが、これを見ますとこんなふうに出ています。

設問、地域の公民館等を利用したボランティア（教職員及び大学生など）がお子さんに学習面等での支援する事業を開始した場合、利用したいと思いませんか。思うという答えが76パーセントでした。ですから回答者のうち5人に4人は必要だと。回答者の内訳ですが、ひとり親家庭というのが3分の2、66パーセントであるという結果が出ているところでございます。こういうことが、当白井市に即しても、こういった事業が必要性和公益性が十分にあると私どもは思っております。

続いて2番目です。事業計画の実現性と充実性です。これは実は、4月1日付の広報しろいについて、生徒を募集したいということになっています。これはもう事前に、申請書の中に事業スケジュールも書いているところですが、実はありがとうございます。回って質問のところで質問があったらお受けしたいと思うのですが、実は、学習時間と場所を十分に確保するために曜日と時間を変えざるを得ないと。駅前センターを借りるときに、混み合っている日はなかなかとれないと。あるいは生徒の学習が5時半から7時だと部活終わってからやろうとすると、ほとんど時間がとれないと。何とかならないものかという形で、曜日と時間を変えて、場所も教育センターの中での場所を借りてという形で書いてあります。

3番目の自発性ですが、熱意というものが評価の対象となるということでございますので、我々はこう考えている部分を申し上げたいと思います。実は、先ほど申し上げました大綱で、子供の将来はその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、また、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、必要な環境整備と教育の機会均等を図る子供の貧困対策は極めて重要であるという形で定義がされております。こういった定義を白井市で実現すべく、一定の役割を果たし、いずれ行政が全体的に実施することになると思われる、その地ならし、あるいは下準備。あるいは、文字どおりステップになるということを目指して、補助金の申請をしたいわけでございます。以上でございます。

[委員長] ありがとうございます。私、委員長を引き受けさせていただきます〇〇と申します。よろしく願いいたします。この後、各委員から申請内容に沿ってご質問させていただきますので、簡潔にお答えいただければと思います。

最初に今のプレゼンテーションの中で、開催曜日と時間を変更なさるということで、そこだけ最初にお話いただいてよろしいですか。

[発表者] わかりました。事前の申請書類は、3枚目が事業スケジュールとその前の2枚目の一番最後に、回数が当面、週に2回と17時30分から19時という形で書いてあるわけですが、まず、曜日の火曜と木曜というのは、実は駅前センターが混んでいまして、初めは17時半から19時というのは、小中学生のルーム、それを使ってということで考えていたのですが、そうすると終わりが19時で切れてしまうんですね。そうすると、中学生が部活動を終えて始めようというときに、5時半に来るのはなかなかきついわけです。6時に来ると、6時に来て終わりが7時で1時間か。たった1時間のために行くのは大変だな。行きたくないな、ちょっと足を運ぶのはちょっと遠くなるなど。ぜひ、後ろを20時、午後8時までに組み直したい。それだと場所が使えないわけですね。そうすると、皆さんが応募して抽選に当たるところの2階の研究室等を申請すると。そういう形になるわけですね。そうすると、いつが空いているのか。比較的空いている曜日はいつがあるかということをお考えまして、どうも火曜と木曜は競合する団体が多い。そうすると、その都度、今週は外れたのでといって、じゃあどこになりますかということに困るわけ。比較的空いているのは、水曜と土曜ではないかというサジェッションをいただきましたものから、そちらのほうに変えて、時間も始まりの時間を17時としたら、部活やらない子もいるわけですね。そういう子は早く来ていいわけ。早く終わっていいわけ。だけど、部活動を終えて来る子は、例えば18時から来て20時までと、2時間あるからね。そういう形でこの時間の幅をとって、場所も変えて曜日を変えることで、通ってくる生徒にとっての学習時間と場所が確保できると、こういう目論見で、変えざるを得なかった。変えたほうがよりよい、生徒にとって学習支援として、よりよい方法ではないかと考えた次第でございます。

[委員長] 水曜と土曜日の開始時間は18時ですか。

[発表者] 17時ということ。

[委員長] 17時。失礼しました。17時から20時ということ、幅広にしますということですね。ありがとうございます。では他の委員からご質問お願いいたします。どうぞ。

[委員] なぜ、中学生を対象を絞ったのか。学習支援を子供が学習で落ちこぼれるのは、小学校の段階のことがよくわかってないから中学校の勉強ができないという方なので、

早く手をうったほうが良いと思うんですけれども、なぜ中学校なのですか。

[発表者] 大きなつまずきは、9歳、小学校4年生ですね。分数と小数が出てくるところでのつまずきが大きいと。僕らも共通で認識しているところです。それがずっと積み積もって。例えば中学でわからないと。あるいはそれを終えて、何とか高校に入っても高校の授業についていけないと。そういうところで、できれば幅広く小学生の高学年からという思いはあるのですが、我々のスタッフの人数の問題と、最終的には中学を終えるところまで何とか追いついてもらいたいと。ですから、応急処置の第一番目はそこじゃないかと。まず第一に、そこに手をつけるみたいなの。もっと言うならば、小学生の高学年までという考えです。

[委員] 小学生のほうが自由時間が多いですね。対象の中に貧困というのがありましたね。募集段階でまずどういうふうはこの貧困の生徒を集める。自分のところが貧しいというのを全面に出されたときに、募集、対象者が行きにくいんじゃないかと。

[委員長] ちらしや広報の内容というんですか、どういう形で内容を出していくか。

[発表者] 貧困対策ということは表面には掲げられません。逆に掲げてしまいますと、あそこに通っている子は貧しい子たちが行ってるんだなとレッテルが張られまして、行きづらい形になるわけです。ですから、そういうことは一切使えないわけです。ですけれども、実際に学習が遅れている子供が、そういった環境の子が多いわけですから、学習がうまくいけないと、不安があるという形で呼びかければ、そういった子が相対的には来てくれるんじゃないかなと思っております。小学生を相手にというのは、確かにおっしゃるとおりなのですが、瀬戸際のところで、まず中学を卒業するところで何とか一定のカバーはできるところで義務教育を終える形をとりたいと。ですから瀬戸際作戦なんですね、我々としては。

[委員長] あとお一方。〇〇委員、お願いいたします。

[委員] 今、経済的理由のところはわかりました。1点だけなのですが、広く募るところで、例えばこれは学習が低い方。それに加えて、レベルの高い方もそれは当然受け入れるというスタンスでしょうか。学習レベルが成績のいい方から低い方まで幅広く受け入れるということでしょうか。

[発表者] いろんな方が来るだろうとは思ってます。それで、レベルの高い人が来てまずいということはないのですが、家庭的な問題で塾に行けない子もいれば、高かろうが低かろうが来て学習の支援はしたいと。ただ、需要は、切羽詰まっている子というのは相対的に低い子ではないかというふうに我々としては思っているところでございます。別に門戸を閉ざしているわけではございませんので。

[委員] わかりました。

[委員長] よろしいでしょうか。〇〇委員、簡潔にお願いいたします。

[委員] 12月に5日間、1月に4日間実施されていますね。その中で一つはちょっと困ったなと思うことと、もう一つは喜びを感じたこととがあれば、簡単で結構です。

[発表者] 実は中学生が来ていても、その中学生は小学校の内容もよくわかってないと。あるいは中学1年生で、もう半年英語やったんだけど、ほとんど初めからやらないとわからないという形で、とりあえず塾に席は置いているけれども、なかなか消化、吸収で

きないという子が多いということが一つです。うれしかったことは、終わった後、親御さんもお本人からもありがたいと、また今度あれば、引き続きそういうのに参加したいというようなお手紙をいただいたことがうれしかったことです。

[委員長] プレゼンテーションをありがとうございました。

<発表団体名 特定非営利活動法人まんぷく食堂>

[発表者] まんぷく食堂の〇〇です。早速なんですけど、こちらにいらっしゃる中で貧困を経験している方とかいらっしゃいますか。ご両親がいつも働いていて家にいないと経験された方いらっしゃいますか。

実は、私自身も離婚していて母子家庭なんですけれども、お金がないということで、実際何を減らすかという食費を減らすんですね。そこが一番手っ取り早いということなんですけれども、食費を減らすということは、少しでも満腹感を得られるように甘いものがふえてしまったりとか、そういうのでお腹を満たすようになっていたりして、今では普通の生活を結構おくれるようになったのですけれども、そうすることによって、うちの子はちょっとぽっちゃりとしていたりとか、病気しやすかったりとかそういうことがいっぱいありました。

やっぱり栄養が偏ると、病気をして、そこで仕事を休まなきゃいけなくなって、さらに病院代もかかってきます。そういう子たちを減らしたいということがまず一つと、あと、私はサービス業をしているために、土日祝日は結構仕事で、子供から、いつも仕事だね、早く帰ってきてとか、一人で寂しいよっていう電話がしょっちゅうあります。

そういう子たちのためにも、今は月1回、2回かなぐらいしかやってないんですが、ご協力いただけましたら、うちも使ってって言ったひととかがいらっしゃってくだされば、1カ月に何日も開けるかなと思って。そのためには、逆にボランティアさんたちも必要ですし、そのときに、食べ物を扱うので検便検査とか、あと、お野菜をいただけるって声もあるのですが、足りない食材を買わなきゃいけないので、そのために今回のこの助成金を申請させていただきたいなと思いました。

でも、来る子たちが貧困な子とかで限定してしまうと、来る子たちがみんな貧乏だと思われて、やっぱりそこに行かせたいって保護者が思わなくなると思うので、来てくださる方誰でもいいです。やっぱり、子供と保護者とひとり暮らしの方とか来ていただく中から、そういう貧困の子たちの手を引っ張って連れて来てくださって、ちょっとずつ楽しい居場所になっていったらいいなと思っています。以上です。

[委員長] はい、ありがとうございます。では、私、委員長の〇〇と申しますけれども、この後、委員から今申請いただいた内容とプレゼンテーションしていただいた内容を合わせて、質問をさせていただきますので、簡潔にお答えいただければと思います。

最初に私から。提案書の内容で、まだ場所が決まっていないというふうに記載をいただいていますけれども、想定される場所お有りになるのか。それがいつ決まるのかというあたりを教えてくださいませんか。

[発表者] 今のところ、複合センターさんが月1回貸してくださる。あと南山地区なんですけれども、友達の家で月1回開放してくださるということで、今のところ月2回を考えて

おります。

[委員長] はい、ありがとうございます。では、ほかの委員の方からご質問をお願いいたします。

[委員] 一つよろしいでしょうか。

[委員長] どうぞ。

[委員] ○○と申しますけれども、今まで調理経験とかそういうのはあるわけですか。

[発表者] 実は私、全然ないのですが、一応、ボランティア団体さんとかに協力を得て、そういう方もいるよということで、そういう方の指導のもとでやってみたいなと思って。

[委員] まだ提案できてないわけですね。

[発表者] 一応、これから話し合っ、どういう形でできるのかっていう。宣伝方法とかは、私も子供がいるので、私の知り合いからふやしていきたいなというふうに。

[委員] わかりました。ありがとうございます。

[委員長] 今の関連でいつごろから、その場所とそれからメンバー集めて開始をされるおつもりでいらっしゃるのでしょうか。

[発表者] 4月からと考えておまして、3月中はもう話し合っ、食材をどうするかとかそういうことを話し合っています。

[委員長] はい、わかりました。ほかの委員から。○○委員お願いします。

[委員] 定款の中に食堂の運営にあたっては、障害者の就労保養の場とし、障害者の参加の促進にも寄与することを目的とするということで、事業計画にもいずれは毎日開催して障害者の雇用の場というのがうたわれてますが、これを並行してやるというのはなかなか難しいと思うんですが、この辺はいかがお考えでしょうか。

[発表者] NPO法人を立ち上がる時には、実はこういうことをやりたいという話をしたときに、実際障害者の方たちが行き場所がなくなるという話を聞いたんですね。企業に勤めたいけれどもなかなか入れなかったりとか。そうなったときに、1日に3時間でも4時間でも行けるところがあると助かるんだよという話が出て、そういうふうにできたらいいねということで食堂にして立ち上げていったんですけれども。実際にいざやるとなると、いきなり場所をとって毎日というのは難しいので、月に1回、2回から始めていって、ちょっとずつ大きくして、いずれはそうなればいいかなと思ってつくりました。

[委員] ありがとうございます。

[委員長] ありがとうございます。○○委員お願いします。

[委員] 先日、白井の議会でも、子供食堂、それからテレビドラマでやっていたよね。子供食堂という名称とか名前、全然知らなかったし、これ見て初めて知ったんですけれども、必要性や公益性も非常に素晴らしいと思うのですが、一つだけちょっと気になったところがあるんですけれども。これ活動予算書というのがありますよね。ここに来年の3月31日まで事業収益が887万2,000円。

[発表者] すみません。それは一応、そのNPOを立ち上げるときに、こうなっていかなきゃいけないなという概算でいいのでつくってくださいと言われて、実はつくったんで、それは毎日食堂として開けた場合みたいな、そういう感じだったんですね。なので、こちらの今回申請したのと内容が変わってしまうので。すみません。

[委員] わかりました。

[委員長] よろしいでしょうか。〇〇委員。

[委員] 何名程度を予定されているんですか。

[発表者] 多分、人数的には来る子供や保護者さんたちは、場所的にも20人くらいが限界かなと思っているのですが、もっとふえていくようであれば、もうちょっと広い場所をとか考えていったりですとか。

[委員] それは20名というのは、子供だけですね。大人も含めて20名という。

[発表者] 食べる場所の広さを考えると、20人から30人くらいかなという。

[委員] 大人にも提供するんですか。

[発表者] はい、大人にも。一緒に来てくださった親御さんたちも一緒に食べていただけたらと思うんですけれども。

[委員長] 担い手というんですかね。提供する側のスタッフの方、会員の方って今どのくらい。先ほど、まだ具体的に調理師資格をお持ちの方とかはメンバーにいらっしゃるなくて、ご紹介いただいているという段階というお話でしたが、4月から始められるという想定でいらっしゃるのと、どのくらいの方が具体的にかかわれるのかというところは見えてるのでしょうか。

[発表者] 今のところは、私を含め5名います。

[委員長] 5名。広報、ちらし等はどういう形で大勢の方に知らせていくってところはお考えですか。

[発表者] 複合センターに置いてもらったり、あとは私自身で知り合いに配っていきながら、ちょっとずつ口コミで広がっていくといいなと思っています。

[委員長] ありがとうございます。ほかの委員の方、もうお一方くらい大丈夫かと思いますが。どうぞ。

[委員] ここの食堂を利用できる方は、共働きかひとり家庭ですか。

[発表者] 本当はそういう方たちがメインなんですけど、それを限定してしまうと、来てる子供たちがそれこそ貧乏だねとか、親いないんだねとかなくなってしまいうので来づらくなってしまいうので、もう誰でも来ていいよっていうところから、そういう子供たちを引っ張ってきてくれればいいなと思っています。

[委員長] プレゼンテーションをありがとうございました。

<発表団体名 ふじ元気ひろば>

[発表者] ふじ元気ひろば代表の〇〇と申します。本業のほうは、富士センターの隣にありますふじ保育園の役員をしております。

昨年来、子供食堂をやろうかなというところで、いろいろ都内やら県内、現実にやっているところを見たり聞いたりするようにやったりしてまいりました。そうした中で、市内で催しております社協の地域ぐるみのネットワーク会議というところがございまして、昨年の夏から月一度ずつ開かれている会議、私どものほうは複合センターでやっている会議に出席させていただいて、この中で、子供だけじゃなくて、もう少し高齢者の人たちも見守りだとか孤立だとかそういった問題も一緒に話し合う機会がありまして。

そもそも子供食堂というところだけを考えると、やっぱり非常に問題が多くて、なかなか、仲間と話し合う中でも本当に困った子がそのところに来てるかということがございまして、どうやったらそういう子たちを集められるんだろうというふうなところがずっと議論されてまして。

2回3回と議論を重ねていく中で、やはり、小さい子供から高齢者まで一緒に参加するような何かそういう行事を重ねていく中で、まずは人を集めて、いろんな問題点を語り合わないといけないねということがございまして。民生委員の方もその中に入ってまして、なかなか今、民生委員の方も情報が得られづらくなっていることもありまして、人が集まってそういうところでいろんなことを重ねることで、地域の問題を解決していくほうが一番いいよねということになりました。

保育園の中では、ずっと食育で畑をやっております、たまたまいい地主さんに恵まれてまして畑を貸していただいているわけなんです、そちらの地主さんのところにお話ししましたら、保育園に貸している続きを使っていいよということになりました。

早速3月から、3月20日なのですが、じゃがいもの種植えから始めようかということになりまして、今、計画している最中なのですが。また、富士地区の自治会の皆様にも非常にご厚意をいただき、ちらしも全部自治会のほうで配ってあげるよということでも言われまして、撒いたところなのですが、非常に反響がいい状況にあります。そうした中で、まず1年目なのですが、月一度ずつ、私どもの園の食堂を使って調理をして、2時間ぐらいかけて畑の作業をやって、その後、お昼をみんなで集まって食べようかというふうなところでスタートすることになりました。

事業計画書に書いてあると思うんですけども、私、口でなかなか説明がつけるのがへたなものですから、どうか計画書を見ていただいて、ご理解していただければありがたいなというふうに思います。よろしくお願ひしたいと申します。

[委員長] プレゼンテーションありがとうございました。委員長の〇〇です。この後、各委員から質問させていただきますので、簡潔にお答えいただければと思います。委員のほうから何かご質問ありますでしょうか。

では、私のほうから。今、つくるほうは、お食事提供する場合は、保育園の食堂という調理室でつくられるということなんですけれども、畑のほう、日々の管理というんですかね、結構大変かなと思うんですが、そのあたりの担い手はもう見えているんでしょうか。

[発表者] もともと保育園で畑をやっておるんですが、手伝っていただいた方に今回監査役になってもらったんですけども、その方と有志の方が手伝う、今回ちらしを撒いたことで手伝いたいという方が出てきてございまして、四、五人集まれば大体、畑の維持管理はできると思いますので、その心配は必要ないんじゃないかと。

[委員長] はい、ありがとうございます。ほかの委員から、〇〇委員お願いします。

[委員] 元気食堂、富士センターの食堂で市民に提供されるということなんですけれども、富士センター保育園ですか。保育園の使用料というのは取らないのですか。

[発表者] 一応、社会福祉法人です。

[委員] 富士センターの和室の使用料は5時間で2回、640円なんだけれども、総会か何かという意味ですか。

[発表者] 夏休みですね、子供たち8月の夏休みに、夏休み後半になると宿題に追われる時期になるんですけれども、その時期は宿題が溜まっている子たちもいるかなというふうに思ってまして。長い時間場所を借りて、お昼を食べながら宿題をするほうが、多少お手伝いできたかなというふうに思ってまして、そのときは富士センターをお借りしようかなと。

[委員] 今質問したのは、事業計画書の中の場所で食事はふじ保育園または富士センターとあるもので、富士センターで食事を2回しかしないのかなと思ったので。それとはまた別の話なんですね。わかりました。

[委員長] ありがとうございます。ほかの委員の方からは。〇〇委員お願いいたします。

[委員] うちのほうから審査させていただくのに、公益性と実現性とほかにもあるんですけれども。公益性というのは多くの市民や広範囲な地域となっていて、高齢者から子供まで大変広範囲になっています。ふじ元気ひろばでじゃがいもをやっていますよね。ここに実際は近所ですからそうなるんですけれども、余りふじとうたうのはマイナスになるんじゃないかというふうに思っていることと、これ対象に富士地区第三小学校区の方をどなたでもとなっていますね、年齢は問いませんというのはいいんですけれども、今後もう少し見かけだけでも広くするとか。

[委員長] 地区外からの参加希望があったときには、受け入れいただけるというのはあるんでしょうか。

[発表者] それはもう構いません。もともと地域ぐるみネットワークの第三小学校区というところのテーブルから始まったものですから、どうしても富士地区ということになっちゃうんですけれども、それは構わないと思います。

[委員長] あわせて、案内は自治会の回覧板に協力をいただいて、本当にいいことだと思うんですが、回覧板以外にも、そういった意味でほかの地区の方にも参加いただくということがあると、少し広範囲の広報とかも想定はできるんでしょうかね。

[発表者] はい。ぜひ、そうしていきたいと思っています。

[委員長] あんまり広げすぎてもってところもお考えもあるのかと思いますが。

[委員] 市の広報にも出すと書いてありますから、全般的に広報に出して、行ったらだめよということはいえないですよ。

[委員長] そうですね。ほかの委員の方、お願いいたします。

[委員] 調理をなさるのに、資格を持った方がみえるんですか。

[発表者] 私どもの保育園の調理師がやりますし、保育園の調理室を使いますので、当然そここのところの衛生管理だけはしっかりとやります。

[委員] それも会員の仲間ですか。

[発表者] 会計になっている者が調理師です。

[委員長] ほかの委員の方。じゃあ、保育園の本来事業と団体としての活動の差別化はできるんですかね。

[発表者] はい。

[委員長] 保育園の事業ではなく、団体としての活動ってところは差別化できますか。

[発表者] それは別会計でやろうというふうに思ってます。ですから、ふじ元気ひろばの

口座は口座でつくって、そこで管理しようというふうに計画しております。

〔委員〕社会福祉法人改革の中で、社会福祉法人の社会貢献というのがうたわれていますが、それとも切り離されたものと考えていいのでしょうか。

〔発表者〕私のほうはその一部かなというふうに捉えております。そういう意味では、うちの場所を提供して使っていただいたりとか、そもそもの始まりが、卒園した親御さんがやっぱり共働きをされていて、自分たちの子供の居場所がないというところもありましたので。

〔委員〕開放することによって、地域に貢献しますということ。

〔委員長〕あとお一方ぐらいご質問があれば。どうぞ。

〔委員〕一番後ろの今度の3月20日の会議というか催し物の中で、参加費大人200円。予算書を見ると、参加費大人300円となっていますけれども。

〔発表者〕これは実は先月、千葉であった会議の中で、千葉フードバンクさんと連携があったんですけれども、食材そちらからいただけるというようなお話になりましたので、一応、そういう部分では、ちょっと食材費は安くできるような形になるかなというふうに。

〔委員〕予算書とちょっと違うなと思ったので。

〔委員長〕プレゼンテーションをありがとうございました。

<発表団体名 ユーカリアンサンブル>

〔発表者〕皆さんこんにちは、ユーカリアンサンブルといいます。楽器演奏グループをボランティアでやっている団体です。ちょっとアナログで、紙芝居風で、機械を使いません。事業名は先ほどお話いただいたように、生き生き暮らすためのお手伝い～音楽ボランティアを通して～です。私たちは、30代から80代までの男女7人のボランティア演奏グループで、主に高齢者施設で活動しています。年齢、性別、国籍に関係なく、音楽は世界の共通語だと考えて活動しております。メンバーなのですが、キーボードをメインにフルート、クラリネット、ヴァイオリン、それにボーカルのメンバーがいます。

白井市でも、高齢者が年々ふえていっています。高齢者にとって音楽は、お手元の別紙1でもお示ししたとおり、QOL、クオリティー・オブ・ライフ。生活の質の向上に高い効果があると考えております。また、カラオケやテレビから出てくる音と違い、生の楽器演奏から出る音は、人の心に響くものがあります。

私たちのグループのテーマは、心に残る日本の歌で、童謡唱歌、叙情歌、昭和の名曲などを演奏しています。今までに演奏した後、感激した、私たちだけのために長く演奏してもらってありがたかった、昔を思い出して懐かしかった、なぜか涙が出た、みんなで歌えて楽しかったなどの感想をいただいております。

さて、今回応募した事業についてお話しします。まず、今までは、依頼があっただけからお受けしてきた高齢者施設の訪問を計画的に定期訪問という形にします。毎日の暮らしの中で、私たちが伺って演奏することにより、生活のリズムを変えたり、生活の質を向上させたり、季節を感じていただけたりするのではないのでしょうか。また、手話ソングや音楽養護の勉強をして、施設の皆様と参加型の音楽会を開きたいと思っています。施設の利用者様の中には、認知症の方もいらっしゃいます。私たちの演奏が音楽療法の一助になれば、

大変うれしく思っております。今年度は、白井市内広範囲の白井の家、サクラビア、そよ風、愛の家、グループホーム白井富士の四つの施設に季節ごとに伺います。毎回の訪問演奏を充実させるために、いろいろな物品を予算計上しました。まず、演奏のメインになるキーボードのスタンド、勉強会に使う参考図書、雰囲気盛り上げるためのサンタの衣装、癒やしの音を演出する吊り輪、ウインドチャイムともいいます。そして何よりも、演奏のもととなる楽譜やその印刷代、コピー用紙やインク代など、ぜひ必要です。また、演奏の質を上げるため指導者にも来てもらいます。

事業の二つ目のポイントについてお話します。演奏で元気がもらえるのは、高齢者だけとは限りません。私たちや市民一般の人々にも広く聴いていただきたいと計画しています。今回は西白井を中心とした音楽のつどい、白井市堀込を会場としてのコンサート、二つの場所での演奏を計画しております。内容は演奏を聴いていただくだけでなく、会場の皆さんと一緒に歌ったりしようと思っています。その副産物として、地域の人々のつながりの輪を広げること、文化・芸術・音楽を推進することというおまけもついてきます。音楽が質のよい、生の楽器の演奏が。失礼しました。

[委員長] プレゼンテーションありがとうございました。委員長の〇〇です。この後、提案いただいた申請書及びきょうのプレゼンテーションの内容に対して、質問をさせていただきますので、簡潔にお答えいただければと思います。では、委員の方から何かご質問ありますでしょうか。

では、私のほうから。今回、定期訪問、これまでの活動に合わせて、定期訪問を4施設にいかれるというのがプレゼンの中にありましたけれども、団体としてこれまで訪問されていた先にも合わせて、並行してその活動はしつつ、定期訪問に力を入れていくということの理解でよろしかったでしょうか。

[発表者] そうですね。新たにというか、定期訪問をするのを中心として、私たちのほうにゆとりがあったら、今まで伺ったところも随時伺っていこうと思っています。

[委員長] 大体どのぐらいの回数、定期訪問で考えていらっしゃるのでしょうか。

[発表者] お手元のどこかに、昨年度の実施報告書に書いてありますが、今年度演奏したのが三十何回っていう、かなりの。月に2回3回ぐらい伺っております。

[委員長] 定期訪問も頻度としては大体4施設、月に例えば。

[発表者] 4施設については、季節の音楽を感じていただきたいので、春夏秋冬4回を基本として考えております。

[委員長] はい、ありがとうございます。では、ほかの委員の方お願いいたします。

[委員] アンサンブルさんの活動は、継続してやられているということなんですが、その活動を継続していくためにも自主的な財源の確保が必要で、賛助会員の会費を集めて、自主財源に充てていくという方法は検討に値するのでしょうか、その辺を考えていただきたいということと、あと、活動の展開の中で、ほかの自治体のいろんなボランティア活動をやっている団体がありますので、そういう団体と、コラボしながら介護施設とかそういうところの訪問というのを考えられるのではないのでしょうか。その辺も検討していただきたいなと思います。以上です。

[発表者] 1点目の自主財源の確保ですが、今現在私たちは、月1,000円会費で行動して

おります。今お聞きして、なるほど賛助会員と方法もあったんだなと改めて感じさせられました。それから、ほかの団体さんとコラボするという点については、考えないでもなかったんですが、自主的な活動をメインにボランティア活動をしているので、お互いの歩みを調整する手間を考えると、一つの団体として活動したほうが効率いいのかなと今のところは思っています。

[委員長] はい、ありがとうございます。ほかの委員の方お願いいたします。

[委員] 27年度の事業報告書を見させていただいてますが、船橋とか柏とか鎌ヶ谷とかにも行かれて演奏されてますよね。そういうときには、謝礼や何かは全然出ないのですか。

[発表者] 出ません。というか、私たち足がないというか、全員の移動が不可能なんですね。楽器なんかもあるんですが、その送り迎えをしていただいているので、高齢者施設に関しては、謝礼は一切いただいておりません。ボランティアをうたっておりますので。

[委員] 了解いたしました。

[委員長] ありがとうございます。ほかの委員の方。

[委員] 先ほどレポーターをお聞きしたんですが、もうちょっと詳しく。というのは、公益というものは不特定多数の市民の利益でございますので、できればそれにつながるには、ジャンルがなるべく多く、例えば、童謡とかクラシックとかタンゴとかそれくらいで、ほかに何かございますか。

[発表者] メーンは先ほどお話したように、心に残る日本の歌で、日本の歌でくくっております。童謡唱歌とか季節の叙情歌とか、近々のものでは3月3日にお伺いするところがあるんですが、うれしいたのしいひなまつりとか、季節に応じて選曲しております。

[委員長] ありがとうございます。もう一つ質問なんですが、今7人で会員、メンバーの方7人というふうに記載がありますが、いつもメンバー募集はしてらっしゃって、団体としては新しく参加したいっていう方がいらしたら、受け入れはいつもしてらっしゃるのでしょうか。

[発表者] はい、もちろんです。むしろ、欲しい欲しいと思って、あらゆる手段を講じてメンバー募集しております。

[委員長] スキルで要求されるものはあるのでしょうか。

[発表者] いえ、初見で簡単な曲が弾ける程度というのをうたっておりますので、年齢とかレベルとかは余り問わずに、誰でもいらっしゃいみたいな状況です。

[委員長] はい、ありがとうございます。ほかの委員の方。最後に。

[委員] 1点だけですけれども、収支予算計画書の7ページの中に、補助対象外経費の中に、報償費、使用料、消耗品とこの三つは補助対象外としてあるんですけれども、対象にしたからどうということではないですけれども、この区分けというのは、どこかの指導があったんですか。

[発表者] はい。

[委員] そうですか。

[委員長] 通常の活動はやはり対象外ということで、その事業に対しての経費分を対象ということで出させていただいてるかと思います。プレゼンテーションをありがとうございました。

<発表団体名 NPO法人白井助け合いネット>

[発表者] パソコンを操作しながらご説明させていただきたいと思いますので、こちらでご容赦いただきたいと思います。本日は皆様方、審査の皆様、貴重なお時間をいただきまして、誠にありがとうございました。時間が限られておりますので、手短に当法人の紹介と、それから補助金申請の理由を端的にご説明させていただきまして、あとはご質問でお答えできる部分があればと思っております。

当法人NPO設立は、平成25年とございますけれども2年前のこれはお手元の資料に多分書いてございますが、2年前の23年から活動をしておりまして、現会長の〇〇がいろいろと進めておりました。一応、これからきっちりやっっていこうということで、NPOを発起したのが25年の12月ということになっております。

当社の活動目標は、生活圏サロン、自治会会員ごとのサロンというのが基本の目標でございましたが、社会福祉協議会等の会議で意思疎通を図りながら、現在は清水口小学校区をモデル地区として生活圏サロンづくりを進めております。しかし、定款にありますようなまちづくりというようなテーマから、今回は独自の活動といたしまして、広域サロンとしての介護施設との共同運営サロンをテスト的にやりましたところ、この結果が非常に良かったので、これをぜひ29年度は継続をしたい。これが申請の主な理由でございます。

資料でござらんいただければおわかりいただけると思っておりますけれども、ほとんどがサロンの消耗品関係の費用が充てられております。それから、今後の活動計画ということで、今申し上げました1番の福祉の増進を図る活動というのは、高齢者福祉課さんと社協さんとの連携で、今の自治会単位、生活圏サロンを別途進めておりますけれども、白井市市民全体を対象にしたという形でいきますと、この1、2、3、ブルーで出しておりますのはまだ実際にやっておりません。まだこれは、地域貢献型企業との連携だとか、空き家活用、今後の課題でございます。今回、ご説明申し上げるのは、介護施設の連携型のサロンということになっております。

今、サロンという形でお話をさせていただきましたけれども、これがサロンというものでご参加いただけてない方。やはりイメージ的にどんなのかなということがおありだと思いますので、これから写真を見ていただいて、ここに活動内容、こういうのをイメージしていただければなと思っております。

参加費は大体どこのサロンでも100円から200円。そして、2時間から4時間程度。飲み物を飲みながら地域の皆さんと懇談をするというのがサロンでございます。これが、堀込第三住宅の写真でございます。今年で10年を迎えます。ここでも歌だとか、それからパズルだとか体操だとかこんなものが入ってます。次にご覧いただきますのが、これは清水口3丁目で、会長の〇〇が立ち上げました、なかよしというサロンでございます。これは4月から7年目に入ります。やはり、地域生活圏ですね、自治会単位ということですが、ここは結構、皆さん見学の方だとか近隣の方もお見えになっております。

サロンというのは、こういう形で、実際にこの補助金対象で申請をいたしました、介護施設との提携型。これがこの実績でございます。参加の方は。

[事務局] 時間になりましたので。

[委員長] プレゼンテーションをありがとうございました。委員長の〇〇です。この後、提案内容ときょうのプレゼンに対して、委員から質問をさせていただきますので、簡潔にお答えいただければと思います。では、質問のある委員の方いらっしゃいますでしょうか。

[委員] 白井市は高齢者率がとてもどこの地区も高いんですけれども、その中であえて、少人数制のサロンとうたっているのはどうしてですか。

[発表者] これは少人数制というよりは、場所で制約を受けますので、どうしても、余りたくさんですと、さつきの里での第1回目は70人みえていました。ですから、さつきの里の場合は、70名さんぐらいは一応できる。ただ、やはりちょっとそこが第1回目をやりましたときに、2階にお住いの方たちが、ちょっとうるさいというようなお声があって、2回目はこちらの新しくできたレストランで。そうすると、もう30名ぎりぎりなんです。そんなようなことがあって場所の制約等があるので、それとなかなかチラシだとかPRの関係で、今は基本的には、ちらしは公民館に全部置くと。それから、朝日新聞の告知板のようなどころに出していただいてまして、見ていただけてるんだろうとは思いますが、なかなか高齢の方は足の問題があるんですね。これが、非常に我々今後どうするか、考えなきゃいけない部分だと考えてまして、余り規模をたくさんというよりは、あちこちにつくっていかないとやはり仕方がないのかなと。そのためには、今、場所をお借りしてるさつきの里さんとウィズホスピタルさんできちんと確立できたら。ここでスタッフもいますので、そういう方たちが手慣れていただいて、あちこちでやっていただけるような形にもっていかざるを得ないのではないかなというのが現状でございます。

[委員長] ありがとうございます。関連しての質問ですが、今年度にもうさつきの里さんで事業をやってらっしゃいますが、補助金なしでは事業実施が難しいでしょうか。

[発表者] 基本的には、サロンというのは、お金を生み出すためのものではなくて、やはり低価格で参加していただくというベースでございますので、なかなかその辺のところ、消耗品が結構かかります。そういう意味で、ぜひ補助金をいただいたほうが継続できるかなと。やはり継続しないことには、これは意味がないと思いますので、ぜひその辺のところ、お願いできたらということで申請をさせていただいております。

[委員長] はい。それでは、ほかの委員の方。

[委員] 駅前センターにふらっと、おあしす、それから西白井には梨の実とかございますが、それとの関連性が一つと。それから、この前、サロンに行ったら男性は1人しかいなくて、女性は30人から40人ぐらいいたんですけれども。どうしてそういう女性が多いのか。

[発表者] 男性が少ない理由は、我々もまだつかみきれっていません。ただ、少ないのは事実ですね。そのために一応、いろいろ男性を集めるために企画を考えてはいますが、難しいんですね、男性の場合は。例えば、ちょっとアルコールを出すとかそういうのだと、非常に参加が多くなるんですが、この辺もいろんな問題が出てきますので、慎重に取り組みたい。それから、ほかの現在ある梨の実は広域です。これはふれあい会議から出てきてスタートしています。その前にこちらのほうであります、ふれあいだとかは、かなり前からおやりになっています。目的は、やはり福祉の目的でスタートされてますから、趣味の会の延長のようなものとは違いますので、やはり地域にそういう形で貢献していくというのが、同じ目的でございます。ネットは、将来的にそういう方たちと、ネットワークを組

みたい。しかも、こちらとして、そういう核になって各地でおやりになるサロン関係の援助を申し上げるような機能をもちたい。こういう形で考えております。

[委員長] はい、ありがとうございます。〇〇委員お願いします。

[委員] 今後の活動展開の中で、ほかの市民活動団体との協力を図るというくだりがございますけれども、どんな分野の団体さんと今後どのような連携を図っていくことを想定されておりますか。

[発表者] 今、他団体さんはコーヒー等をお持ちしたりするようなサービススタッフも要りますので、白井いきいきライフさん。前もってお話をさせていただいておりますが、6名ぐらい協力していただけるということが決まっております。

[委員長] プレゼンテーションをありがとうございました。

<発表団体 特定非営利活動法人しろい環境塾>

[発表者] しろい環境塾の〇〇と申します。私のほうで説明させていただきますので、よろしく願いいたします。資料がお手元に5ページのを追加でお出ししておりますけれども、そちらのほうを中心に説明させていただきます。1枚目2枚目は、今までの事業について説明した資料、3枚目以降が今回の事業計画に基づいた補足資料、こういう形になりますので、最初の1ページから説明させていただきます。

タイトルがしろい環境塾が目指すものという形で上下に書いてありますように、次の世代に里地里山のよりよい環境を引き継ぎ、やすらぎのあるまちづくりに貢献する。それから下に3項目ございまして、1が里山を生かしたまちづくり、2番目が多様な生き物呼び戻し、里山の循環システムの復活を目指す、それから、3番目が里山から恵みを受けたる市民や農家や自治体が協働して、里山保全に取り組むという形で17年目になります。

2ページのほうにいきます。2ページは、今までの活動状況を地図に表したものでございます。白井市の東側に事務所及びベースキャンプを置きまして、平塚地区を中心としたエリアでブリッジの管理、それから田畑の管理ということをやっております、左端の運動公園の森から平塚地区、それから、神々廻の畑等々につきまして、それから3の谷津の水田というところで活動を進めております。

あとは3枚目につきましては、事業計画書の事業目的のところを、一緒にごらんいただきながら説明させていただきたいと思っております。事業の目的としましては、今までやってきたところを推し進めまして、彩りのある景観植物、景観作物で里地里山づくりをして、ふるさとの風景を助けるような手助けをしていきたい。それからあわせて、特定有害植物でありますナガエツルノゲイトウを調査確認して、除去することを目的としております。

3枚目の地図でございまして、事業の内容の番号と合っております、1番がコキアを栽培してコキアの紅葉、それから利用方法を探るというのが1番でございます。2番目が景観植物のヒマワリを数種栽培しまして、菜花を楽しむとともに食用法も考えたい。それから、3番目がカンナ街道と呼ばれるところに、カンナがかなり以前から植えられているんですけども、最近かなりみすぼらしくなっておりますので、そのあたりの手入れをしていきたい。4番目は、金山落しの川沿いの道路の草刈り。今年は今井橋から今井3号橋のところまでいきたいというふうに考えております。あとは、ナガエツルノゲイトウで

ございますけれども、5ページ目をごらんになっていただきまして、印旛沼から用水を通じまして、この地区の畑、田んぼにも入り込んでおります植物を除去していきたいというふうな形でございます。

すみません、4ページに戻っていただきまして、主にやる植物、花としましては、カンナ、カンナ街道のカンナ、それから、ホウキグサと呼ばれるコキアの紅葉、それから、ヒマワリを3種ほど植えるという形で、彩りのあるまちというものを展開していきたいというふうに考えております。以上です。

[委員長] はい、ありがとうございます。委員長の〇〇です。提案していただいた内容ときょうのプレゼンテーションの内容に沿って質問させていただきますので、簡潔にお答えいただければと思います。

では最初に、月2回土曜日の活動ということでご提案いただいておりますけれども、今までの事業、活動いろんなことをされてるかと思うんですが、そこまた参加者層は違う、ターゲットは違うということで思ったほうがよろしいでしょうか。

[発表者] 月水士で会員を中心に活動しているんですけれども、土曜日に設定しまして、一般の市民、それから親子連れ等の方も参加できるような予定で、これから活動をやりたいと考えております。

[委員長] 新たに参加をいただいても、その方たちが会員になればというような設えを想定してらっしゃるわけですね。

[発表者] そうですね。

[委員長] わかりました、ありがとうございます。では、ほかの委員の方から。〇〇委員お願いします。

[委員] しろい環境塾さんは、前から随分ご活躍されているのは、私もよく知ってるんですけども。ちょっとこの収支年間計画書の中を見させていただいて、参加費1回100円って取られますよね。事業収入の部ですけれども、参加費1回100円というのは何に利用されるんですか。

[発表者] 保険料が30円ほどボランティア保険から入りますので、その経費。それから、印刷物等の資料代というふうになっております。

[委員] それで支出のほうで補助対象経費を見ると、ここに保険料というのが入っているですよ。この保険料はこの参加費から出てるんじゃないんですか。

[発表者] 収入は収入として、経費は経費としてというふうに、我々活動はいつもやっているときに計上させていただいておりますので。

[委員] これは別に参加される方からいただくから、対象外なんじゃないかなと。

[発表者] いえ、参加費も収入のうちというふうに考えまして、経費は経費というふうに活動としては考えております。

[委員] もう一点。草刈り機って、もうございますよね。現在、環境塾さんかなり台数持ってると思うんですが、新たにまた購入するということですか。

[発表者] 会員が活動するものと、これから一般市民の方に使っていただくものとは、講習会等ございまして、別途のものを用意して使っていただいたほうが安全かと思っておりますので、予備として考えております。

[委員] 了解しました。

[委員長] ありがとうございます。ほかの委員の方、〇〇委員お願いします。

[委員] 定款に、子供の健全育成のためにというのがありまして、これから白井市内の小学校とか中学校あるいは白井高校、そういったところに体験学習とか、半日でもいいので、そういったことを期待していますが、いかがでしょうか。

[発表者] そういうふうな要望等があれば、もちろん専門的に受け入れますし、また、今回のこういう事業がもし採択されて実行するとなったら、そういう土曜日の活動の中に、そういう小学生、中学生そういった方に呼びかけて、ぜひ参加していただけたらというふうに思っております。それから今おっしゃった、我々も子供の環境教育も授業の一貫につながるかなというふうに考えております。

[委員] ちょっと気になるんですが、草刈りって結構危険ですよ。今まで講習会を開いて何かありましたか。

[発表者] おっしゃるとおりで、チェーンソーだとか草刈り機、ああいう動力機械、非常に危険ですので、毎年、千葉県林業組合の指導員に来ていただいて、そういう講習を受けています。その講習を受けた人間しか使えないことにしております。それもありまして、先ほどの、今回の事業で草刈り機2台を購入して、それをこの事業で使う担当者というのを決めたいと思っております。でないと、誰でも勝手に使われるというふうにしたら危険ですので、そういうふうを考えております。

[委員] 了解しました、ありがとうございます。

[委員長] では、〇〇委員お願いします。

[委員] 予算のことでお伺いしたいんですけれども、自主財源のところでは繰越金というのがございます。この繰越金というのは、後ろについている活動金3種のところの繰越金のお金とはちょっと違うので、どういうところが出てくるのか教えてください。

[発表者] これはしろい環境塾全体としての繰越金というのは、またもう少し金額はありますが、私どもは各事業単位の事業を行っているんですよ。里山保全事業とか、農業支援事業だとか、子供環境教育事業とか市民交流事業とか、事業別にやっております。今回、このような新しい景観の向上ということを目指した事業として、出してきたものがこの繰越金の9万4,000円という形になっております。

[委員長] ほかの事業で得た事業収入をここに補填するということですか。それとも。

[発表者] そうです。自主財源としてゼロからスタートするのは難しいだろうということで、これまでやってきた各事業部の中で、これに該当する事業を抜き出したときに、このぐらいの繰越金が想定できるということで、自主財源としてここに入れたわけです。

[委員長] そうですね。他の事業からの補てんという意味合いでよろしいでしょうか。

[発表者] 完全なる他の事業からの補てんという意味じゃなくて、確かにもともとの金額は、今までやってた事業の中からの繰越金ですけども、今回この事業を行うということに該当する部分の事業の中から、この繰越金を算出したという形で、そういう実財源ゼロからというのは難しいので、これを計上したという次第です。

[委員長] はい、わかりました。それでは、ほかの委員の方、〇〇委員お願いします。

[委員] 今回から受給が30万から25万になったんですけれども、5万円減ったことについて

ても、今まで3年間ぐらい30万円だったんですけれども、5万円減ったことについての影響というのは何かありますか。

〔発表者〕はつきり言いまして、つらいです。私どももいろんな事業をやっておりますので、どうしても潤澤な財政状況でやっていきたいと思ひまして、その中で30万円から25万円というのは厳しいところはありますけれども、それでも、やれる範囲でやるしかないなと思っております。

〔委員〕わかりました。

〔委員長〕プレゼンテーションをありがとうございました。

<発表団体 ときめきマルシェプロジェクト>

〔発表者〕 ときめきマルシェ代表の〇〇と申します。

〔発表者〕 幹事の〇〇と申します。

〔発表者〕 よろしくお願ひいたします。

〔発表者〕 しろい、しらい、どこのまち。ここからそう遠くない町で私たちが投げかけられた言葉です。知名度イコール魅力だと、もちろん考えていません。別物だからこそ、自由に魅力を取り出すことができる。それを形にしたものが、ときめきマルシェです。

おとし、市の主催で実施したときめきマルシェ。昨年、市民団体に移行して2回開催することができました。当初、2回の開催を計画しておりましたが、ほかのイベントとの兼ね合いや駐車場の関係から開催を2回に変更し、その分、3回より2回目のイベントの中身を充実させることに力をそそぎました。テーマとなったハロウィンに合わせて、フェイスペイント、フォトコーナーを用意し、SNSを組み合わせて個々の楽しさを共有、発信。イベントの魅力発信が集客と新たな出店者につながるような工夫を積み上げました。イベントとしての奥行きを広げるため、音楽も取り入れました。流山市で活動している地域活動団体おとえんを招いて、音楽を流してもらい、市をまたぐほかの団体との交流への足がかりとしました。出店者もふえ、第2回は45団体出店がありました。個人で作成した手づくり品のほか、障害者福祉関係の団体も2団体出店し、出店者の幅が広がってきました。

当日にとったアンケートでは、楽しかったという意見が多く寄せられ、続けてほしいという意見も多くありました。一方で、飲食店をふやしてほしいという要望も多く寄せられていました。そこで、29年度のときめきマルシェでは、来場者の要望に応えるため、キッチンカーの出店を可能にし、飲食の幅を広げてまいります。食事の選択肢をふやすことにより、より長い時間の滞在が期待でき、男性や子供たちにも満足感の高いイベントとなることが期待できます。また、白井で採れたトマトを利用したトマトすくいの企画も準備を進めています。子供たちが楽しんで地元の農産物に親しめる機会になるようにしたいと考えております。

私たちがなぜここまでイベントの魅力にこだわるのか。それは、子育て世代が魅力を感じるまちづくりが、私たちの最終目標となっていることが根本にあります。社会実験としてもときめきマルシェの目的となっていた、子育て世代の定住促進、これが全国的に言われている人口減少による地域衰退を防ぐための秘策です。

そのために、30代から40代までの子育て世代の女性が魅力を感じるイベントにするた

め、ときめきマルシェはおしゃれをポイントに活動を展開してまいりました。28年度からは補助金を利用して、手に持っただけでわくわくするようなちらしを作成し、保育園、幼稚園、小学校に配布して、ターゲット層であるファミリーでの来場に働きかけました。来場のきっかけについて、ちらしを見て来場したとアンケートに書いた人数が多く、補助金利用効果の高い結果となりました。さらに活動を発展させるため、SNSを駆使して、ほかの市の団体と連携を深め、白井の農工商、さらには福祉も視野に入れた発展効果を生み出していきたいと考えております。

私たちは補助金を配布物やSNSなどの情報発信に使用して、より多くの方がときめきマルシェの存在に目を留められるようにはたらきかけてまいります。ときめきと緑あふれる快活都市。私のゴールは明確です。さらに追い風をいただき、速度を上げてまいりたいと考えております。私たちの活動にご理解ご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

[委員長] はい、プレゼンテーションありがとうございました。委員長の〇〇です。委員から質問をさせていただきますので、簡潔にお答えいただければと思います。では、委員からご質問を。では、〇〇委員お願いいたします。

[委員] 市民が主体ですので。今、白井市には市民活動する各団体がありますが、この連携はありますでしょうか。

[委員長] ほかの団体との連携をどうお考えでしょうか。

[発表者] ほかの団体の連携としては、この間の秋のマルシェのときに、しらゆりの会という福祉の団体が参加していただきまして、それで障害がある方のつくったものを並べていただきました。

[委員長] より多くの団体との連携というのは。

[発表者] 今後、どういった団体があるかよく調べて、参加を呼びかけてまいります。

[委員長] ありがとうございます。では、ほかの委員、お願いいたします。

[委員] 補助の申請額は20万円というふうになっていますよね。25万までオーケーだし、補助対象の8割だったら25万超えていますよね。なんで20万なんですか。

[発表者] とくにこの予算を出したもので十分なので、それ以上の予算は希望しないという形で、20万としました。あと、出店料が入りますので。

[委員] そうなただけけれども、自主財源の部分を何かほかに変えるとか、やったりするようなどころを見つかるし、補助金を有効に活用するのであればフルにもらったほうがいいんじゃないか。前回、去年は3万円やらなかったから返すというのがあるんですけども、もらえるものはもらったほうがいいんじゃないのかな。

[発表者] そうですね。何に予算を付け加えていか細かい数が出せなかったの。

[委員] 補助対象を積み上げると34万9,893円あるんで。

[発表者] 細かい金額を全て書き込まないといけないので。何に幾ら使ったというのを全て書き出さないといけなかったの。

[委員] 対象となるものが少なかったんだと思います。

[発表者] はい。

[委員長] 自主財源率を高めていくというのは大事なことなので、ぜひ事業収入もきちっ

と確保いただければと思います。ほかの委員の方、〇〇委員お願いいたします。

[委員] 予算書の支出の部分で見させていただいたんですが、おとえんというところが随分大きい出費になっているような気がするんですけども。効果があるように思うんですが、この辺はいかがですか。

[発表者] おとえんさんが結構な人数で来られるんです。10名ぐらいで来るんですね。1人頭にするると本当に額が少ないかなと思うんですね。機材もたくさん運んできてくれますし。

[委員] 足代は入ってないんですか。

[発表者] はい。

[委員] これに含まれているわけですね。

[発表者] そうですね。

[委員] はい、了解しました。

[委員] 福祉っていうと今、何かシルバーとか言われて、高齢者が中心なんです。私も後期高齢者なんで、これ言うと、高齢者に裏切り者と言われるかもしれないですけども、これからは若い子にお金を使ったほうがいいと思うんで、この企画が子育て世代の女性とその家族、友人等との交流になっていて、大変素晴らしい企画だと思います。ただ、高齢者もちょっと入りやすいような雰囲気をつくっていただきたいという声がチラチラ聞こえてくるんで。私は別にいいんじゃないのと思ってますけれども、そうだねと言っておきました。

[発表者] ありがとうございます。アンケートの中にそういったご意見がなくて、50代の女性の方から複数なんですけれども、こういう楽しい若いパワーが画期的と書いていただいたご意見も結構多かったものですから。今度、ご来場された方には、ぜひ忌憚のないご意見を書いていただければと思います。

[委員長] ターゲティングも大事だけれども、高齢者もちょっと行きたいなと思える視点も少しあってもっていう助言かと思えますけれども。

[発表者] できるだけ取り組んでまいります。

[委員長] はい、〇〇委員お願いいたします。

[委員] 先ほどのおとえんの話なんですけど、流山の子たちだって話を聞きましたが、白井市内にも音楽を楽しんでやってる若者たちもたくさんいると思うんですが、そういう人たちの出演の場っていうのは、全く考えてないのでしょうか。

[発表者] そうですね。これから、募集かけられるようでしたらかけてまいりますけど、複数のこういった出演者があると、結構選定が難しくなってきたり、今、出店者だけでも結構、選定が大変なものですから。今後、スタッフの量をふやしてから対応させていただければと思いますので。

[委員長] はい、ありがとうございます。現在、おとえんさんは、どちらかというところBG M的な感じで、会場の雰囲気づくりで音響設備もお持ちなので、そこもほかにレンタルを使わないで、おとえんさんがいらしていただくことでクリアになっていると。今のお話は、演奏という地域の人たちが演奏する場としては、もしふやせるようだったらということでご検討いただければという。また、それもご考慮いただいとということですね。はい、

どうぞ。

[委員] ○○委員の意見と同じような感じなんですが、子育て世代の女性と書いてありますけれども、現状、子育てしてるのは、おじいちゃんおばあちゃんも多いです。そういう方もやっぱり含めてイベントを開催していただくとよろしいかと思います。

[発表者] 来場された中にも、恐らくおばあちゃんとお孫さんっていう方も結構いらっしゃったものですから。そういった方も楽しめるようにいろんな工夫をしたいと思います。

[委員] ぜひ。私も足を運べるように。

[委員長] ほかの方、あと一名ほどあれば、よろしいですか。○○委員お願いします。

[委員] 最初のときは3回計画でしたっけ。3回目やらなかったのは、なぜですか。

[発表者] 先ほどの説明にもありましたが、駐車場の確保がほかの団体とかぶってしまって、駐車場が難しかったので、2回になりました。どうしても駐車場を確保しないと、車で来られる方がかなり多いものですから。

[委員長] プレゼンテーションをありがとうございました。

(3) 補助金審査〔非公開〕

(理由) 白井市情報公開条例第9条第1項第6号に基づき、補助金審査の内容のため。

資料1 平成29年度白井市市民団体活動支援補助金の審査に係る公開プレゼンテーション